

**【解説】**  
交通量の多い明治通りと昭和通りの交差点に面し、大濠公園の緑を背景に、この建物は建っている。4階建て低層の割にその存在感、ポリウムは相当なものであるが、かといっていたずらに自己を主張せず、公園の緑と調和した色調や、シンプルなデザインながら重厚な雰囲気によって、周回も含めたこの地区の都市景観を印象づける主要な要素となっている。昭和9年に建築されて以来、幾度かの改修の際にも既存の景観を損なわないように配慮され、現在も当時の外観をほぼそのまま残している点も高く評価したい。福岡の歴史の重みを持つ景観を見直そうとするとき、まず念頭に浮かぶ建物の一つであることは間違いない。

(審判員) 高 素久



所在地 中央区大濠公園1番1号  
関係者 福岡簡易保険事務センター

**概要**  
用途 簡易生命保険業務  
構造 鉄筋コンクリート造  
階数 4階建  
建築面積 4,368.72㎡  
延床面積 16,741.02㎡  
敷地面積 9,917.58㎡  
完成年月 1934年3月



**福岡簡易保険事務センター**

昭和9年に当時としては大規模な最先端施設として完成した当施設も、時代の流れのなかで内部の施設は変化を続けてきましたが、大濠湖畔にたたずむ景観は当初の姿を今に残し、今回、歴史の重みを持つ景観として賞をいただきましたことを光栄に思います。  
(福岡簡易保険事務センター所長 倉田 毅弘さん)

所在地 福岡区東区五丁目7番1号  
所有者 学校法人中村学園  
設計者 株式会社日建設計大阪本社  
施工者 株式会社九州支店

**概要**  
延長 258m  
材質 フェンス：ロートアイアン、石柱：花崗岩、一部煉瓦積：ミッドランドブリック  
樹木 ホルトノキ、サツキ、ツツジ、コトネアスター、ペニカナメモチ  
その他 路面：一部煉瓦スタイル敷  
完成年月 1997年11月



**【解説】**  
賞の対象となっている中村学園大学正門周りは、学生や訪問者にとっては学園への導入部として、また学外には大学のイメージを高めるための空間として重要である。特に市の中心部とながかる国道202号線沿いに正門を挟んで東西両側に伸びる対象地は、それだけ外景観的にも修景効果の高い空間が望まれるわけであるが、道路と学園敷地の境界には自然石の石積みが歩道より約60cm高に積み重ねられており色調、仕上げも穏やかである。防犯のための鉄製柵は、この石積みより学園側にセットバックさせてあり、さらにこの柵が目立たないように、学園側にはカナメモチが列植されている。このカナメモチは道路からの視線を遮断することなく、高木ホルトノキの樹幹越しに学舎や菜山を透かし見る効果を出しており、これらの効果を持続するため、年2回ほどの管理作業も適正に行われており都市景観への貢献は高いと思われる。

(審判員) 岡本 均

**中村学園大学正門周り**

歩道に沿って低い石垣を配置し、その上にセットバックしてブロンズ風装飾フェンスを設け、カナメモチの生け垣を配置しました。さらにその背後には、ツツジと高木のホルトノキを植栽し、季節感が漂う明るい学び舎のイメージとなるように配慮しました。  
(中村学園大学管財課 保坂 卓一さん)

